http://fuchu-env.web.infoseek.co.jp

府中かんきょう市民の会

NPO法人　府中かんきょう市民の会々報
２００７年 春号　4月11日発行／季刊
発行人：進藤　禮治郎
連絡先：府中市日新町　4-5-24
TEL 042-366-2134

INFORMATION

色とりどりの花が見られる散策コース

桜、菜の花、レンゲなど、春の到来を感じさせる色とりどりの花々。
日本の四季の美しさを再認識できる、春景色を眺めにでかけましょう。

京王沿線 インフォメーション
春のおでかけ SPECIALガイド

※花の見頃は気候により前後する場合があります

京王沿線生活マガジン「あいぼりー」2007春号で当会のレンゲまつりが紹介されました。
（「あいぼりー」の紹介紙面から構成）

❷「押立」のレンゲ畑

府中市押立町にある1,600㎡の田んぼを、NPO法人「府中かんきょう市民の会」が６年がかりで育てあげたレンゲ畑。見頃は４月中旬～５月上旬くらいで、4/21（土）10:00～15:00には「第７回レンゲまつり」を開催。花飾り遊びや府中産の蜂蜜販売など、楽しいイベントを企画しています。※雨天の場合は翌4/22（日）に振り替え

交 武蔵野台駅下車徒歩5分
問 http://fuchu-env.web.infoseek.co.jp（レンゲの開花情報）

市民の目 ⑨

歩行者レーンにも車 危険な人見街道

都内と府中を結ぶ人見街道（都道）は、クルマの多さに加えて歩行者、自転車も通る生活道路です。申し訳のように引かれた歩行者レーン（緑色マーキング）も、すれ違う大型車にふさがれ、人や自転車は安心して進めない危険いっぱいの道路です。

いまさら拡幅もできないこの危険道路には、一方通行や車両制限等の検討を東京都や公安委員会に働きかけるなど世論の高まりを期待せざるをえません。

（写真は紅葉丘2丁目付近の人見街道）

「食人」という「不都合」

椛島　弘通

「カニバリゼイション（Cannibalization）」と云う言葉があります。商品開発の分野で、既存のA商品の売上を、自社の後発B商品の売上が食って、Aの売上を減らし、Bの売上が伸びることを云います。

この「カニバル」と云う言葉はしかし、本来、人間が忌むべきことゝして来た「食人」を意味する言葉です。

さて、映画「不都合な真実」を観て、私が痛切に思うことは、「不都合な真実」の真の核心は、人間社会の中で起こっているCannibalizationではないかと云うことです。思えばそれは、「食人」に似ていまわしい。

環境問題を、何故「食人」と結びつけるか。それは、この映画を観れば、先進国に住む「人」が、開発途上国の「人」の「生」を蝕み、やがて「己」をも蝕むことが容易に想像できるからです。

「銭（ぜに）」は食えない！

最近、トウモロコシからバイオエタノールを作って、自動車の燃料にする事が、環境に優しいとして喧伝されています。然し、その一方で、トウモロコシ価格の高騰は、時を待たないのです。背景にあるのは、「市場原理」至上主義であり、「金」を求めて自動車を動かす「人間」が、人間の「食」をぶん取ると云う構図しか見えません。「環境改善」とはほど遠いのが真実だと思うのです。

アメリカインディアン・ナホバ族酋長の、有名な言葉を思い出しました。

……, Only after the last fish has caught,
Only then will you find that money
can not be eaten

そう。どう稼ぎまくったところで、最後の魚を取り尽くして、手元に来た「銭」が食えないことに気付いても、もう遅いのでした。まことに「不都合な真実」であります。

最も影響力のあった政策指導者…アル・ゴア(58)

●アル・ゴア氏は、温暖化ガスの排出削減を先進国に義務づけた京都議定書が失効する2012年を待たず、10年から新たな目標を導入すべきだと主張。「私は地球温暖化と言わず、気候クライシス…危機と呼ぶ。気候クライシスは科学、政治だけの問題ではなく個人に至る倫理の問題だ」と述べた。　●米国の一般向け有力科学誌「サイエンティフィック・アメリカン」が、映画「不都合な真実」などを通じた気候変動問題の啓発活動により、彼を「2006年に最も影響力のあった政策指導者」に選んだ。　●映画「不都合な真実」は2007年の第79回アカデミー賞の長編ドキュメンタリー賞に輝いた。

微力ながらも環境ボランティアに誇り

竹田　勇

ドラマでもない、ドクメンタリー風でもない、どんなジャンルにも属さない映画であってこれが商業ベース乗ったことがまず驚きであった。途中、居眠りをする退屈場面もあったが、氷河の溶けつつある場面、以前の雪や氷河景色と現在のそれを比較した場面をビジュアルに見せられると地球温暖化が現実のものとなったと実感する。

そしてアメリカ国民がゴアを大統領に選出しなかったアメリカ国民のバカヤロウ。彼を選んでおれば、アフガン攻撃、イラク戦争もなかったろうにと思えた。また兵器産業に注力するがため、GMやフォードがホンダ、トヨタに追い抜かれたとみるべきだろう。

日本は確かに環境先進国であるが、もっと排出大国に技術を提供しても、温暖化ガス削減に協力すべきである。そして更に省エネ技術の開発に取り組むべきであり、現政府の姿勢が明確に見えない。

地球環境問題は我々市民の問題で、市民が一人一人実践する必要がある。

府中かんきょう塾でもテーマとして取り上げ、啓蒙活動をしているが、大きな動きとなっていない。ゴミ減量問題でも効果が出ていないし、農産物の地産・地消運動も学校給食での占拠率は低い。

エコ・ライフとなると、消費量が低減し、経済不況につながるという意識が生ずる。

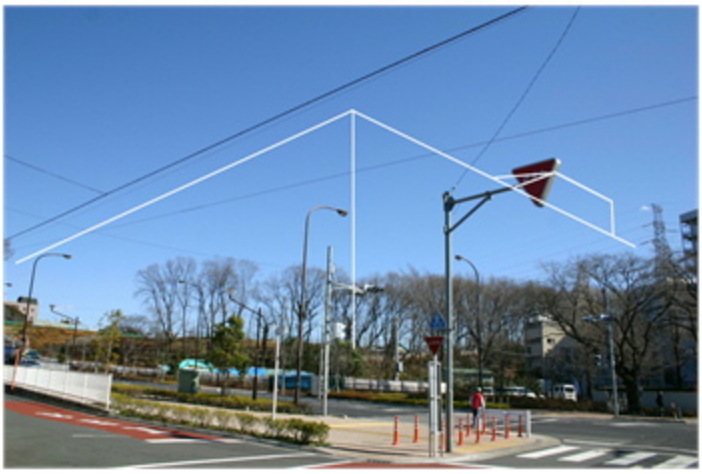
これは間違った杞憂であってエコ・ライフに相応しい製品、商品が開発されてくるとみてよいのだ。

いや、ＧＤＰが下がっても良いのではないか、とも思った。

私は、府中かんきょう市民の会やかんきょう塾ネットの会員として、地球環境問題の解消・防止に微力ながら実践している一人として誇らしく生きている。

駅前の便利な所に住みながら、マイカーを有していて、これを手放そうと本気で検討する機会を与えてくれた。

ＰＦＩによる都立病院建設と ハケの景観



国分寺崖線は景観的にも貴重であり、「東京都景観条例」に国分寺崖線景観基本軸として位置づけられている重要な資源です。

ここに高さ57．1㍍の都立府中病院の立替計画があるのがわかったのが昨年の夏のことです。PFIという手法で行われるこの建設計画が都議会に報告されたのは平成16年ですが、建設予定地のある府中市の市民には、昨年夏の時点まで何も知らされませんでした。

PFIとは、民間の資金・ノウハウを公共事業に活用するというもので、自治体の事業計画に対し事業者が具体設計で応札します。これは市民にとっては、a）計画のスタートから建設まで2年程かかるので情報がつかみにくい b）計画決定のプロセスでの市民意見表明の機会が無い c）計画が市民に公開される時点では計画変更ができないなど問題の多いものです。今回は更に、自治体の計画の基本となる「要求水準書」の「遵守すべき法令」の中に「東京都景観条例」が含まれていないという重大問題がありました。

東京都が自ら定めた「景観条例」を考慮に入れず、「景観条例」で位置づけられている「国分寺崖線景観基本軸」を保全するという姿勢が示されませんでした。

この事業を進める「東京都病院経営本部」は、緑地・樹木を残すという範囲内でしか景観を考えておらず、「崖線の緑の上には空が広がる景観を維持する」という認識が欠如しています。縦割り行政の中、景観の担当と病院経営本部の連携が全くなかった問題点も明らかになりました。

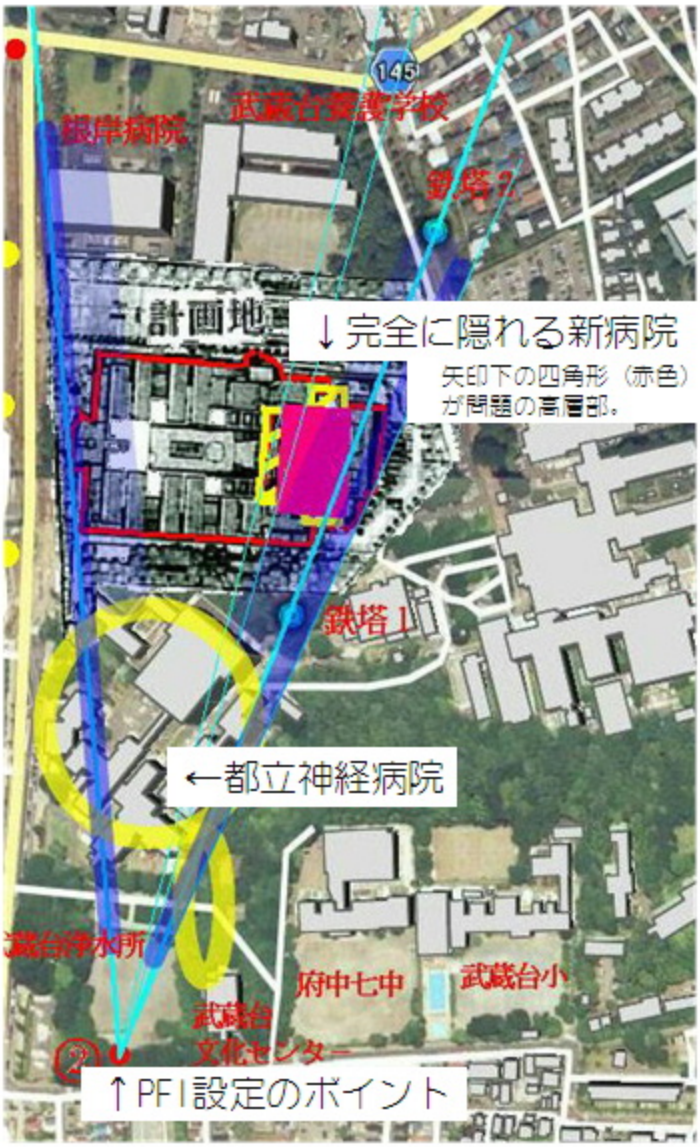
都自らが条例を遵守することなく事業を進めることは、将来的には民間事業への規制ができなくなるという危惧もあります。景観、環境を守るということに関し、公共事業は範を示すべき存在であるということを、今一度、都は認識すべきであり、今回は特に、PFI事業の性質上進め方は慎重を期すべきでした。

この間、「府中かんきょう市民の会」では意見書の提出、公聴会、東京都へのヒアリング、府中市との話し合い、国分寺の景観を守る活動をしている方々と連携をとりながら進めてきました。

2月13日に、PFI事業者が新たに出してきたシミュレーションのチェックの為に、フィールドワークを行いました。新病院建設予定地は根岸病院南側、現在は駐車場と空地です。その予定地に立つと、新病院が崖線の際に建つことが確認できます（左の写真）。フィールドワーク後、国分寺の市民団体の方がシミュレーションの再検討を行い、撮影ポイントでの見え方は概ね正しい様だが、ポイントの設定自体に問題があるのではないか、新病院が手前の建物や木々に隠れる地点を、撮影ポイントに選んでいるのではないかとの指摘があり、自分達で検証していくことの重要さを再認識しました。

今回、これらの活動の積み重ねにより、PFIによる公共事業においても景観・環境への配慮が求められることについて警鐘を鳴らすことができたと思います。

平成18年度に「東京都景観条例」の改正が行われ、府中市も景観行政団体となる途が開かれました。景観行政団体になると、景観計画の策定・変更と景観計画に基づく行為の規制のほか、景観協議会を設立・運営、景観形成に取り組むNPO法人や公益法人を景観整備機構として指定するなどの業務を行うことができます。「景観計画」の素案を公開しパブリックコメントを求めるともに、新年度から東京都と協議を開始し、早い時期の景観行政団体登録を目指すとしています。平成19年度は、景観保全を求めていく活動にとって大きな年になりそうです。（前川浩子）



ＰＦＩ側の景観影響シミュレーションについての市民検討結果の一例。前景に都立神経病院が立ちはだかる地点がわざと選ばれたことにより新病院は完全に隠れてしまう…左上画像とも畑中久美子さん（国分寺市）提供。

死角になる範囲 ↑

湧水を活用した親水空間づくりの第一歩

西府ハケ下に新たに土水路が完成

西府ハケ下には市川緑道と水路が整備され、樹林と水辺が市民の憩いの場になっています。従来、水路には地下水をポンプで汲み上げて循環させていました。一方、貴重な湧水は残念ながら国立との境で、下水路に放流され、市民の目から消えていました。

このたび、公園緑地課の緑道改修（1～3月）に伴い、この湧水を活用するため、府中用水路と緑道水路と接続する工事を行い、湧水を流すことになりました。

湧水利用に関して私たちは、水とみどりのネットワークづくりの観点から、かねてより提案、主張してきました。通年通水による親水空間づくりの第一歩が実現したことを喜んでおります。

国立市のママ下湧水や矢川湧水等からの流れが主な水源ですが、西府の湧水もわずかながら合流します。5～9月になると多摩川から取水される農業用水も加わり、水量豊かな水辺となります。

湧水を緑道の水路に流すため、30㍍の素掘の水路が新たに出現することになります。

自然を生かした新設水路…岩の湧水付近

既設水路と素堀部（岩の湧水）との接続工事

この区間には通称"岩の湧水"という所があり、降雨のあと、大岩から湧水が滴り落ちる光景がみられ、ハケの緑となった水辺景観を呈します。

年間を通じて水流が途切れないことで、魚類や植物の生息が期待されますが、観察や調査が待たれるところです。

市議会でも当該地は「水と緑事業」にふさわしい地域であり、具体的に「ホタルの里づくり」も提案されました。ホタルのエサとなるカワニナの生息はなくなりましたが、復活させるには良い川で、ホタルの養殖等に恰好の候補地だと注目されています。

湧水を下水路に流すのはもったいない

周辺一帯はハケがあり、府中用水の幹線水路が集中する水の豊富な地域です。この地域特性を生かして、広がりと厚みのある親水空間をつくれないか。ここは市内の最上流部です。親水化の起点として事業の全体像づくりの議論を盛り上げたいものです。事業に関連して気づいたことをまとめていますが紙面の都合で、ここでは概略を述べ、次号にその詳細を掲載します。

（1）ハケと湧水は一体です。西府湧水は東京都の湧水地57選にも数えられ、やすらぎ空間として市民に親しまれています。この貴重な湧水保全のため、当会は定期的に水量・水質調査を実施し、データを蓄積しています。懸念する枯渇を防ぐため雨水浸透施設や集水池等、強力な施策の実行を期待しています

（2）流れのうち、地下水の循環起点からあずまやまでは既設水路です。ここは、砂利敷きで浅瀬もあり、魚類の生息条件としては改善の余地があるでしょう。

（3）湧水を300mほど流しただけで、また下水路に放流します。もったいないことです。緑道の整備されている新田川へ流すことなどにより、有効利用ができると思います。

（4）五小のハケ下に'カッパ池'と称する石組みの水路があります。今後のエコロジカルな地域づくりを視野にいれて、ビオトープエリアとして見直すことを提案します。

（2007.3.12/試験通水の日、進藤礼治郎）

西府崖線を破壊する道路陳情に思う

昨年秋、西府崖線に新しい道路を作れという陳情が市議会に提出されました。市議会はこれを継続審議としましたが釈然としないものが残ります。

この陳情の内容は、「本宿4号踏切の拡幅」も含まれていましたが、「西府崖線に道路を新設する」ことに的を絞って述べます。

陳情理由は、西府崖線の南側に位置する日新町のそれぞれの住民が新しくできる西府駅へのアクセスが十分でないので、西府駅の南側にのびる西府崖線を切り開いて、日新町一丁目北交差点付近から西府文化センターまで通じる道路の新設を要望しているものです。

地域住民が利用しやすい西府駅への道路新設という願いは理解できるのですが、しかし、この新駅建設という大事業を進めるにあたって、JR側の新駅設置の条件である、①西府文化センターに通じる上西踏切および第五小学校に通じる小学校踏切を廃止する、②駅舎その他の工事の経費を府中市が負担する…を受け入れたうえで工事が進められました。そのため、南武線南側も、第五小学校の校庭を大きく変更する(だだでさえ南北に短い第五小学校の運動場をいっそう短くした)ことなったのをはじめ(併せて、通称「学校店」の廃業)、第五学童クラブの移転、苗圃の撤去、西府文化センター西側に広がるJAその他の土地の用途変更などと、次々と巻き添えを食って西府崖線一帯の風景はすでに一変してしまっています。

これらは南武線北側から、第五小学校や第五学童クラブへ通う児童や西部出張所や西府文化センターに行き来する住民、夏は西府プールに行く児童たちに不便をかけるものであります。

西府崖線は新しくできる西府駅利用のためという理由でこれ以上破壊されるべきではありません。新駅設置にともなう関連工事で、もう十分に傷つけられたと私は思っています。これ以上の破壊は許されませんし、貴重な緑は多少の便利さと引き替えにすべきではなく、未来にわたり引き継ぐべき市民の貴重な財産でもあります。

区画整理計画は西府崖線の緑をかなりの規模で奪っても何とか新駅をつくりたいという切望で実現したものだと理解しています。日新町の住民に若干の不便があったとしても、鎌倉街道を迂回するか、第五小学校の南側か大山道を迂回する方法がありますし、これらについても必要な改修工事も計画されているようです。鎌倉街道の迂回を別にすれば、これらの道路を利用して西府駅に行くのに、クルマでも2～3分余計にかかるだけです。

この道路の新設案は、わずかに残された府中崖線の西府地区を破壊しようとする大胆なものです。区画整理計画を積極的に推進した市会議員は、このような事情を全て把握しており、西府崖線の存在は、むしろ日新町の住民にとっても子々孫々に残すべき大切な場所であり、不自由ながらも前述の対応策は計画されていることを説明して、陳情は取り下げるよう説得すべきであったと私は考えます。市議会でも継続審議ではなく、陳情却下にすべきであったと思います。このような大事業が下手な政治屋的取引の材料にされたら、市民がもてあそばれているようで不愉快極まることです。

当面の利便さに目を奪われるのではなく、未来をみすえた開発のありかたが今回も問われているように思います。（田中正仁）

工事で伐採される可能性がある大木。
西府崖線は未来にわたり引き継ぐべき市民の財産だ

ハケ下の四阿(あずまや)のある風景も道路が作られたら一変してしまう。
工事で道路の下に潜り込むか、撤去される。

本年1月26～27日に都内で開催された本シンポに進藤氏とともに参加（第1日のみ）した。このシンポは、国・地域を挙げて農業・農村の再生、活性化を支援する農水省と自然環境の保全を支援する環境省の主催・共催。

農業生産との共生を図りつつ、農村地域の二次的自然環境の保全・再生活動を行っている優良事例を表彰する「田園自然再生活動コンクール」（第1日目）と「自然と共生した農村づくり」をテーマに様々な切り口から優良事例紹介・討議する「田んぼフォーラム」（2日目）が行われた。

冒頭、主催者を代表して農水省の外郭団体（社）農村環境整備センター（http://www.acres.or.jp）の中村桂子理事長の挨拶があり、国にとって重要な農業を学校教育の必須にすべきと訴えた。

14人の著名な審査委員（委員長：進士五十八／農大教授）の慎重な審査で応募57団体のうち次ページの団体が受賞した。評価のポイントは、＊農業生産との調和、＊農業者、地域住民、NPO等との連携、＊都市と農山漁村の共生・対流、＊地域の活性化への貢献、＊環境教育の取り組みなど。

これら成功事例に共通しているのは、熱心な特定の団体だけでなく、地域の住民、行政、教育機関との連携である。

また、単なる田園自然の保護だけでなく、そこに地域の経済活動が伴う必要があると再確認した。

当会も府中の自然環境を保全する諸活動を実施し、地域社会に貢献していることを誇りに思うとともに、この輪を大きく広げて行かねばと思った。

そして地域の自然環境だけでなく、伝統文化や技術も大切に保存し、地元が誇れる特産物や芸術品を創り出す自然環境豊かな街にしたいものだ。より詳しくは、上記の農村環境整備センターおよび下記ホームページで。（竹田　勇）

＜参考＞
1）第4回　田園自然再生シンポジウム　小冊子
2）田んぼの学校　Q＆A　田んぼの学校支援センター
http://www.acres.or.jp/tanbo
3）生き物と一緒に暮らせる村づくり
農水産省農村振興局企画部事業計画課発行
4）Groundwork Today　特集　ともに学び
ともに育む　グランドワーク
（財）日本グランドワーク協会　発行
http://www.groundwork.or.jp

受賞団体とその活動

＜農林水産大臣賞＞ ―総合的に優れた取り組み―

宮城県大崎市　**特定非営利活動法人 シナイモツゴ郷（さと）の会** ❶

池干しとバス駆除に参加する子どもたち▼

ため池などにおいて、外来魚の駆除や在来魚の人工繁殖など生息環境の保全を進め、田園地帯の自然を再生する実践的な活動を実施。誰でも出来る在来魚の繁殖技術を確立し広く公表・普及するとともに、地元小学校での人工繁殖を支援。シナイモツゴを安全・安心のシンボルとし環境に配慮した営農を行う営農組合と連携し、生息池の監視、池干しなどの共同作業を実施している。

＜農村振興局長賞＞ ―農業・農村振興、地域づくりに向けた取り組み―

山口県阿東町　**阿東町土地改良区・阿東町立嘉年（かね）小学校・嘉年（かね）ゆめ倶楽部** ❷

ビオトープの生きもの調査▼

水生生物が生息できる農村環境の保全を目的に、ほ場整備事業でビオトープを各地に設置。これをきっかけに3団体が連携し、地元小学校での環境学習や地域住民によるビオトープの清掃・維持管理活動など、地域全体で農村環境の保全を目指した活動を実施している。

＜自然環境局長賞＞ ―自然生態系の保全・再生に向けた取り組み―

長野県東御（とうみ）市　**北御牧（きたみまき）のオオルリシジミを守る会** ❸

小学校理科クラブでの活動▼

オオルリシジミを復活させるために、蝶の累代飼育による増殖とあわせて、生息地である水田環境の保全、食草であるクララの保護増殖及び農家や市民への周知啓発を行い、守る会、小学校、企業、行政など関係機関が一丸となって蝶の保護、農村環境の保全活動を展開している。

＜朝日新聞社賞＞ ―活動内容が幅広く、社会的貢献度が高い取り組み―

新潟県柏崎市　**別俣（べつまた）地区コミュニティ振興協議会** ❹

田んぼの自然観察▼

「別俣田んぼの分校」活動により地域の自然環境を再認識するとともに、全戸アンケートによる「コミュニティ計画」を策定。湿原や休耕田での生きものの保全、農作業体験など、地域自然の保全と次世代の育成を意図した活動を、子供たちを中心に地域住民全体で展開している。

＜子どもと生きもの賞＞ ―子供たちの環境教育への取り組み―

岡山県久米南（くめなん）町　**北庄（きたしょう）中央棚田天然米生産組合** ❺

用水路の生きもの調査▼

日本の棚田百選に選ばれた癒しの風景の維持・地域の活性化を目的に、有機肥料での低農薬米の生産や収穫感謝祭、田んぼの学校活動を展開。また都市住民に棚田の四季を感じてもらうため、写真家を中心とした棚田ファンクラブを結成し棚田写真展示館を設置している。

＜パートナーシップ賞＞ ―多様な主体が連携した取り組み―

山形県舟形町　**ブナの実21** ❻

郷土料理で食育▼

農業の営みに支えられた地域文化と都会にはない豊かな自然のある町を実現する「いやしの里」を実証的に進めることを目的に結成。自然資源を活用した環境教育と産品開発、地域文化の研究伝承、地域リーダー育成など自然との共生を図りつつ経済活動と結び付ける地域づくりを展開している。

＜オーライ!ニッポン賞＞ ―都市と農村の共生・対流によって実施している取り組み―

千葉県多古町　**桜宮（さくらみや）自然公園をつくる会** ❼

地元小学校の自然体験教室▼

里山保全活動を長く続けるため、千葉県が制定した里山保全条例に基づき、知事認定の「活動協定」を桜宮自然公園をつくる会と土地所有者が締結。山あいにある谷津田をまるごとビオトープとして位置づけることで、地域住民の憩いの場、交流の場、自然体験の場を提供している。

＜美しい郷と営み賞＞ ―先人の努力を継承し、農といのちを育む取り組み―

鹿児島県日置市　**尾木場（おこば）地区めだかの里保全委員会** ❽

メダカが生息する水路▼

メダカなどの多様な生き物が生息する棚田を保全するため、農道・ため池等の点検整備や清掃活動などの共同作業を長年にわたり実施するとともに、米づくり体験、山菜狩り、秋まつりなど、棚田を利活用した地域活性化を実現している。

雑学コーナー

多摩川
河川敷

アレチウリ侵入が ツバメのねぐら奪う

大室 清／府中野鳥クラブ

府中四谷橋下流の河川敷には、多摩川流域でも比較的大きなオギ原を主としたヨシ原があります。ヨシ原はオギ原の中央部に幅20～30㍍、長さ120～150㍍の広さで左岸近くに沿って生育し、ニセアカシアが点在する先に水辺があります。

2002年の夏、このヨシ原に大規模なツバメの集団ねぐらが発見され、その年の最盛期には、街で繁殖した幼鳥を主として約22,000羽のツバメが集まりました。当時の記録に「残照の空を埋め尽くし、ヨシ原を低空飛行するツバメの集団は黒い帯となり巨大な生き物のよう」と書かれています。

暗闇の中で望遠鏡にライトを取り付けて、ヨシ原にとまったツバメを観察すると、その目がダイヤのように輝くのです。毎年開催された観察会に多くの市民や小学生が参加して、この光景に歓声をあげました。

ところが現在、ここにアレチウリが繁茂してヨシ原がつぶれツバメの集団ねぐらは見ることができなくなりました。

◆アレチウリ侵入の経過

アレチウリは北米産で、日本では有害な「侵略的外来種」に指定され、その繁殖力は驚異的です。他の植物を覆い尽くし、光を失った在来植物は枯れ、野鳥のみならず昆虫や動物など生態系に悪影響をもたらします。

四谷橋下流の写真と観察記録をたどり、その5年間の経過を見てみました。

①2002年8月頃、オギ・ヨシ原にアレチウリは見られない。ツバメは最盛期22,000羽の集団ねぐらを形成。②2003年6月22日撮影の写真では、アレチウリの侵害はほとんど見られないものの、左遠方部分にアレチウリが見られました。これについて2003年「中間報告書」（多摩川流域ツバメ集団ねぐら調査連絡会）は、ヨシ原が「アレチウリ、オオブタクサ、ニセアカシア等の外来植物の増加で減少」をもたらすと予見。その年、ツバメは最盛期約28,000羽の集団ねぐらを形成。③2004年5月～9月の観察では最盛期20,000～25,000羽のツバメがヨシ原に集結。その頃、アレチウリは水辺方面から急速に増殖し、ツバメのねぐらに接近。④2005年5月の観察でヨシ原にアレチウリが部分的に侵入。ツバメは最盛期25,000羽を確認。ところが7月26日の台風による大雨で事態は一変。アレチウリに覆われたヨシ原は、潰され再び起き上がることはなく、ツバメは集団ねぐらを放棄。

過去3年間、ヨシ原は台風でいったん倒れても再び立ち直り、ツバメの集団ねぐらを崩壊させたことはなく、原因がアレチウリの侵入であることは明らかです。

昨年、府中野鳥クラブは、ツバメの集団ねぐらを復活するために、アレチウリ対策として部分的に「抜き取り作業」を実施。ここに集まったツバメは最盛期でも推定30～50羽程度でした。

◆アレチウリなど外来植物の対策

長野県の千曲川・犀川では、河川事務所と地域住民が協働してアレチウリ対策が進んでいます。そして「駆除回数が多いほど在来種が多くなる」「野焼き、抜き取り、刈り取りをしても、その周辺を残せば再び侵入する」「根絶には、種子が落ちる前に数回実施し、数年間継続する必要がある」「アレチウリが小さいうちに駆除すると作業時間は少ない」など実体験による具体的な成果と教訓が報告されています。

多摩川流域でも、ツバメの観察とアレチウリ対策を数年間続けている「世田谷の野鳥環境を考える会」があり、駆除作業に汗を流しながら、今もツバメの集団ねぐらを維持させています。

アレチウリなど外来植物の侵害問題は、ツバメの集団ねぐら問題に限りません。いま絶滅が心配される在来動植物を救うためにも、その対策が急がれます。

アレチウリに覆われてつぶされたヨシ原　(2006/8/21)